

郷土の偉人・大島有隣
——大島村——①

石門心学普及の拠点地域ともなった大島村（現杉戸町大字大島）は、近世初期の新田開発によって誕生した、いわゆる新田村です。もともと大島新田と呼ばれていたようです（『武蔵田園簿』）。但し、この大島新田は、この後、享保期（一七一六〜一七三六）に開発された大島新田（現杉戸町大字本島の一部ほか）と字面は同じですが、全く別の村です。しかも、ややこしいのは、この二つの新田村がすぐ隣同士だということにあります。もつとも、地形的には、先に開発された大島新田（後の大島村）が、古利根川と旧河道（旧渡良瀬川分流か）とに挟まれた後背湿地と微高地とに位置しているのに対し、享保期開発の大島新田は、元々百二十ヘクタールにも及ぶ沼であり、両者の様相は大きく異なるものでした。

余談ながら、遅くとも元禄期（一六八八〜一七〇四）には大島新田の方が、すでに大島村へと呼称が変わっていますので、当時の人々が二つの村を混同するということはないかっただけでしょう。

ところで、大島村は、元々幕府直轄領でしたが、「元禄の地方直し」と呼ばれる政策により、旗本である三宅と森川、両氏の知行地となりました。このうち、三宅氏知行地の名

主を務めたのが大島家で、森川氏知行地の名主を務めたのが藤城家でした。奇しくも名主を務める両家から、恭儉舎設立に尽力した大島有隣、藤城吉右衛門の二人が輩出したのでした。

伝承によれば、有隣を輩出した大島家は、下総国結城氏に仕えていた一族であり、吉右衛門を輩出した藤城家は、大坂の陣に敗れた後、当地に定着したという伝承です。それらが史実であるとは、鵜呑みにすることは、裏付ける史料が無いため出来ません。しかし、名主階層などの村の草分には、必ず似たような伝承があることは、地域の歴史を考える上で押さえておく必要があるのではないのでしょうか。



大島村付近 (天保国絵図「武蔵国」より)

※元禄の地方直し：元禄期に江戸幕府が行った旗本知行の再編成政策。
※※草分：荒地などを開墾し、村や新田の開発に関わった農民。

（社会教育課 町史・文化財担当編）

Enjoy Sports ★ スポーツ協会 Vol.11
杉戸町弓道連盟

杉戸町弓道連盟の沿革

当連盟は、昭和55年（1980年）に設立されました。今年で42年目を迎え、現在、男性12名、女性4名、計16名で活動しています。

活動内容

月1度の月例射会・県・支部大会などに参加し、射会を楽しんだり、昇段を目標にし、自己研鑽に努め精進しています。宮代町・幸手市の弓道場で火・木・土・日曜日の午前中、稽古を重ねています。

PRポイント

弓道は「礼に始まり、礼に終わる」を真髄として、修練が心身ともに日常生活につながることを念頭に、スポーツ・健全のみならず、人生をより豊かにするスポーツです。また、性別・年齢問わず、老若男女が楽しめるスポーツですので、弓道に興味や関心がある方、私たちと一緒に弓道を楽しみませんか。

問合せ 杉戸町スポーツ協会事務局
社会教育課 スポーツ振興担当 内線493



▶杉戸町弓道連盟についての問合せ
事務局 小林 正志 ☎ (34) 0993



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ

